

平成30年度第1回府中市健康地域づくり審議会報告書（概要）

- 1 日時 平成30年11月27日（火）18：57～20：22
- 2 場所 府中市役所4階 第1委員会室
- 3 出欠 委員11名全員出席
- 4 内容 審議会の体制が刷新されたことから、議事に先立ち新役員の選出が行われた。委員の互選により谷委員が審議会会長、今川委員が同副会長に選出された。

続いて各分科会から、政策指標の現状、平成30年度施策の中間成果及び評価について報告を受け、意見交換及び施策に対する助言等を行った。

今後、各分科会事務局においては、審議会での意見・助言を踏まえた施策推進に努めるとともに、審議会事務局と連携して実施施策の成果を取りまとめていくこととなる。

【分科会名】 次世代創造分科会	
【政策指標の状況】	
① 平成28年 出生数216人（〔目標〕平成31年度 257人）	
② 平成27年 有配偶者率46.7%（〔目標〕平成32年 52.1%）	
③ 平成28年 合計特殊出生率1.28（〔目標〕平成32年 1.65）	
【分科会開催状況(上期)】 10月11日（木）	《報告》 <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成29年度「府中市子ども・子育て支援事業計画」の量の見込みと実績 ・ 府中市こどもの国（ポムポム）の運営状況 ・ 保育所整備事業 《協議》 <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成30年度分科会施策について（期中の進捗状況） ・ 次年度実施施策（案）について
【各委員からの意見等】	
<ul style="list-style-type: none"> ● ネウボラで受けた相談を、他の組織にどのように繋いでいくかが重要である。相談員に広い知識を持たせるため、研修を行っていただきたい。 同じ相談員に継続して相談できるようにしてはどうか。相談しやすい環境を作ることも大事だと思う。 ● 早くから府中版のネウボラに取り組んでいることが知られておらずもったいない。もっとPRが必要だと思う。 	

【分科会名】 いきいき世代づくり分科会	
【政策指標の状況】	
① 平成28年度メタボリックシンドローム予備群10.0% <div style="text-align: right;">（〔目標〕平成35年度 7.5%）</div> 平成28年度 同該当者 17.2% （〔目標〕平成35年度12.6%）	
② 平成28年人口10万人対自殺死亡率17.1（〔目標〕平成36年度16.1）	
③ 平成30年度就労支援事業から一般就労への移行者5人（〔目標〕平成30年度3人）	
【分科会開催状況(上期)】	《報告》
11月8日（木）	・ 平成30年度施策の進捗状況報告
	《協議》
	・ 平成31年度予定事業
【各委員からの意見等】	
● 糖尿病性腎症重症化予防事業の周知には、かかりつけ医とのやりとりが重要である。府中地区医師会と共同で研修会を開催してはどうか。	
● 特定健診は今年から無料化されたけれども、現実として治療が必要な方に受けていただけていない。情報提供だけでなく、どう取り込んでいくか検討してもらいたい。	
● メンタルヘルス事業は府中地区医師会の産業保健センターでも行っている。事業場への働きかけを産業保健センターと連携して進めていけば、強い取組となるのではないか。	
● 食育について、糖尿病予防食事業の拠点とは別に、他の拠点で子どもたちの食育をする方法もある。	

【分科会名】 熟年元気づくり分科会	
【政策指標の状況】	
平成29年度元気高齢者の割合 77.9%（〔目標〕平成32年度 79.9%） <div style="text-align: right;">（〔同〕平成36年度 81.8%）</div>	
【分科会開催状況(下期)】	《報告》
10月3日（水）	・ 平成30年度施策の期中報告
	《協議》
	・ 平成31年度予定事業について
【各委員からの意見等】	
● いずれの事業も取り組みやすいものが多い。事業を進めていくリーダーシップのとれる人材の育成も必要ではないか。	
● 次世代創造分科会では、何でもサービスにすると子どもの育ちの機能が衰えてしまうという意見がある。地域と子どもたちや家族を繋げることができれば、育児・家事支援への高齢者派遣等事業も進んでいくのではないかと思う。	

【分科会名】 長寿サポート分科会

【政策指標の状況】

平成28年人生の最終段階を終の棲家で迎える高齢者の割合 18.17%
（〔目標〕広島県平均（平成28年22.33%）を上回る）

【分科会開催状況(上期)】

10月22日（月）

《協議》

- ・ 第7期介護保険事業計画の進捗管理について
- ・ 府中市地域包括支援センターの運営について
- ・ 認知症初期集中支援チームの運営について
- ・ 平成31年度施策の方向性について

[各委員からの意見等]

- コーディネーターの負担が大きいという問題がある。民生委員など現場を知っている方々との、繋がりや情報共有が大事ではないか。
- 退院時支援は府中市民病院の包括支援センターが音頭をとるのか。病院の取組に入っていくようにすることで、在宅医療に移行する際に何が障壁となるか把握し、良い退院時支援ができるよう検討していただきたい。